

# ICS250 課題探求プロジェクトⅡ

2年 3,4クォーター

担当教員	伊藤 勇, 横井正信, 木原泰紀, 木村 亮, 岡崎英一, 松田和之, 月原敏博, 皆島 博, 細谷龍平, JANNUZI CHARLES EDWARD, Kelly King, Ph.D., 井上博行, 永井崇弘, 羽田野慶子, 今井祐子, 磯崎康太郎, 生駒俊英, 東村純子, 田中志敬, 栗原知子, 飯田健志, 中村友哉, Christopher Hennessy, M.A.
授業形態	演習
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニング科目
単位数	2
曜日・時限	水曜日・3～5時限

## 授業概要

地域創生アプローチを選択する学生は、各自の問題意識の下に、具体的な課題や企業・自治体の特定の課題について、継続的な調査の実施や、就業体験、イベント・活動への参加を通じた体験的な学習を行うことにより、課題のイメージを明確化することを目標とする。学外での活動の合間に、学内での取組み支援のためのレクチャーやグループ討議を交えて、調査の分析、体験の振り返りを行い、暫定的な提案や活動報告につなげる。

グローバルアプローチを選択する学生は、主に異文化交流やダイバーシティに関連して自治体の生涯学習ないし商工観光関連等の部局や関係団体の実施するイベントや取組みの企画運営にチームで加わり、体験的な学習および関連する調査学習を行う。これによって、海外と地域との課題認識の違いや海外に福井の文化や情報を発信することの重要性を認識して、海外留学に備える。

## 到達目標

- (1) 地域における企業、自治体、団体等の組織やその目的、およびそれらが直面する課題について概括的に理解し、以後の学習を深化させるために現場を踏まえた知識や情報を獲得する。
- (2) 地域の現場で発生している問題や地域で活動をしている人々の意識、考え方を理解し、自分の視野や問題意識を広げる。

## 先修科目

課題探求プロジェクト基礎 A, 課題探求プロジェクト基礎 B, 国際地域概論, 課題探求プロジェクト I, リサーチ・リテラシー科目の複数科目, 現代社会科目 (入門) の複数科目, 現代社会科目 (国際) の複数科目, 1年次履修の共通教育・専門教育の英語科目

## 教科書・参考資料等

全体に関わる教科書はない。  
調査先に応じて適宜文献を紹介する。

## 授業の方法

教室でのグループワーク、レクチャー、および学外での就業体験や活動への参加、および調査を中心とする。活動や調査の事前準備・事中の打合せ・事後の総括のため、授業が行われない週、あるいは空き時間に学生はグループで集まり議論や作業を行う必要がある。

## 成績評価

活動途中、および最終プレゼンテーション後に提出するレポートおよび、取組みへの態度に関する学生間のピアレビュー・教員による観察評価

## 成績

- 80% レポート
- 20% 取組みへの態度に関するピアレビュー・観察評価

## 授業スケジュール

(1回の授業は、隔週1回2コマ連続を原則とするが、実施が1日にわたる場合ないし土日に実施される場合がある。また、授業の予定されていない週については、学生が事前準備や事後討論のためのグループワークを実施するほか、テーマごとに相手先の都合も配慮して弾力的に授業日を変更する)

(地域創生アプローチ)

### 第1回：授業ガイダンス、行動計画の立案

学生の受け入れ先のキャパシティに応じて3～6人程度の小チームを編成し、企業、自治体、団体等での学生の取組みについて計画を立てる。

### 第2回以降：

＜特定企業や自治体の部局ごとに組織されたプロジェクト＞

#### ①就業体験（3日程度）

授業開始前（夏期休業中）または授業期間中（冬季休業中）を利用して、就業体験を実施する。

#### ②企業、自治体調査（2～3回）

就業体験と関連づけながら、企業や自治体の業務やその魅力、課題についてチームごとにインタビュー調査やデータ調査を行う。

#### ③レクチャー（2回）

学生の調査設計のために、経営や自治体業務に関する知識や具体的なデータ処理の方法について教員が指導する。

＜地域課題（地域活性化、男女共同参画など）ごとに組織されたプロジェクト＞

#### ①活動体験（3日程度）

課題に関わり自治体や各種自治体を実施するイベント等に参加したり、自ら企画を考え実施したりする。

#### ②地域ヒアリング、活動ヒアリング（2～3回）

地域住民や、活動団体等に対する調査の企画、設計、実施を行う。

#### ③レクチャー（2回）

学生の調査設計のために、教員やゲスト講師に地域や活動の概要に関するレクチャーおよび、調査やデータ処理についての指導を行う。

### 最終回：プロジェクト報告

各チームが作成した企業や自治体の魅力と課題紹介、および調査データと活動体験にもとづく提案報告を、それぞれ受け入れ先の企業、自治体、団体等に対してプレゼンテーションし、講評を受ける。

(グローバルアプローチ)

### 第1回：授業ガイダンス・プロジェクトの紹介

学生に対して、海外への情報発信や異文化社会におけるジェンダーの具体的な状況について調査するためのチームを編成するため、関連する情報を提供する。

### 第2～3回：レクチャー

海外への情報発信とジェンダー問題にチームを分け、チーム毎に、前者は福井の歴史や文化、特徴に関するレクチャー、後者はジェンダー問題を考える視点に関するレクチャー、および学生相互の討論を行う。

### 第4回：イベント参加を通じた調査

地域で国際交流イベントへ参加し、地域の海外への情報発信のあり方やジェンダー問題に関する参加者へのヒアリング調査を行う。

### 第5回：行政機関等へのヒアリング調査の設計

イベント参加の際のヒアリング調査を踏まえて、行政機関等へ、海外への情報発信方法、および男女共同参画の考え方に関する調査を設計する。

### 第6回：ヒアリング調査の実施

行政機関等へのヒアリング調査を実施する。

### 第7回：調査結果の分析、プレゼンテーションの準備

ヒアリング調査の結果について分析し、プレゼンテーションにおける提言を検討する。

### 第8回：最終成果報告

## 事前・事後学習

---

- ①各回の授業で指示された内容について，個人およびグループで調査および討議を行い，次回の授業の準備を行う。（予習）
- ②最終レポート作成に備えて各自毎回の授業および活動の振り返りを行う。（復習）